

Monthly Report

朴沢学園×マイナビフットボールクラブ、 アカデミックパートナーシップ協定を締結



左から朴澤理事長、栗井代表取締役社長

本学を設置する学校法人朴沢学園は6月17日（木）、仙台大学LC棟で、サッカー女子のマイナビ仙台レディースを運営する株式会社マイナビフットボールクラブと「アカデミックパートナーシップ協定」を結びました。

協定締結により双方はがっちり連携。本学はクラブ側に有望選手を送り込むほか管理栄養士を派遣してスポーツ栄養面で支援します。一方、クラブ側からは学生のインターシップ受け入れで協力をいただく予定です。

株式会社マイナビフットボールクラブ 栗井俊介代表取締役社長のコメント

当社は、今年9月12日に開幕する日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」へ参加を予定しています。サッカーを通じて女性がいきいきと輝く社会づくりに貢献するとともに、未来を担う少女たちにとって「プロサッカー選手」という職業選択肢が定着できるよう、取組みを進めています。体育系教育機関として国内で屈指の実績を誇る学校法人朴沢学園様との連携が、当社の事業を持続的に発展させていく基礎を作るうえで、非常に力強い後押しになることを確信しています。これを機に、スポーツを通じた「地域づくり」「人づくり」に貢献できるよう、より一層努めてまいります。

朴澤泰治理事長のコメント

人口減少、高齢者社会と言われている世の中で、地方大学として地方創生という観点で特に人材育成は重要です。スポーツ科学を専攻する高等教育機関として、そのベースにいるんな人材育成を図るという中で、スポーツにおける最高のパフォーマンスを発揮しているプロスポーツという場面に学生が関わり、次の時代を担う人材育成ができる環境を提供頂けることは大変嬉しく思います。

本学は在仙のプロスポーツ球団・クラブとの連携強化を図っており、これまで仙台89ERS、楽天野球団、ベガルタ仙台との間で協定書を取り交わしています。

目次

・朴沢学園×マイナビフットボールクラブ、アカデミックパートナーシップ協定を締結	1
・クレパス画遊びのすすめ	2
・朴沢学園発祥の地 ～記念碑建立から33年・蒼高き学園の歴史～	3
・入試懇談会を開催しました ・面倒見のいい大学へ/3年生対象個別面談を実施 ・学生45人、聖火リレーでボランティア	4
・元気いっぱい しばたいそう	5
・南一輝、体操部史上最高の3連覇/全日本種目別選手権 ・全国大会へ、決勝で逆転勝利/軟式野球部 ・価値ある栄冠！ 真の東北チャンピオンに/軟式野球部	6
・2021年度オープンキャンパス開催中	7
・2020年度第15回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式を開催	8
・亀山選手、初の五輪へ/本学OB通算4人目 ・リーグ全勝締め/男子バレーボール部(春季)	9
・芝草通信 NO. 26	10
・仙台みそ大学 ～農場から道場へ～ ふるさとの食に学ぶ/高大食文化交流 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.38	11

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

クレパス画遊びのすすめ

仙台大学 教授 賞雅 さや子

「保育所保育指針」には保育の基本原則として「乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること」とあり、「幼稚園教育要領」でも「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として」行うことが教育の基本とされています。したがって、保育者は遊びの専門家であることが求められます。

保育者養成課程の授業で私の担当は子どもや家庭の支援に関する科目が多いのですが、遊びをたくさん知ってほしくて、ときどき遊びを体験したり紹介したりすることがあります。その内の一つ、私の大好きな遊び「クレパス画遊び」をご紹介します。これはもちろん子どもが遊んで楽しいのですが、大人がやってもおもしろく、夢中になる遊びです。体験した学生の多くが「おもしろかった」「もっとやりたい」と言ってくれます。



クレパス画遊びでは、クレパスで何かを描くのではなく、好きな色を好きなように塗ったり、重ねたり、ひっかいたりして遊びます。絵画の苦手さから開放され、気持ちを表せたときのスッキリ感や、自分の中から表れてくる表現を受け入れることの心地よさを味わいます。大人でも日常から少し離れて「心の開放」を体験することができます。

遊びは、まず、クレパスの巻紙をむいてしまうところから始まります。多くの方は最初ためらいますが、ビリビリと紙を破くのがだんだん楽しくなってきます。クレパスという素材は、唯一日本で生まれた画材です。クレヨンが顔料2割+ロウ8割なのに対して、クレパスは顔料が8割です。そのために画用紙の上で自在に混色が可能なのが特徴です。巻紙をむいて描くということは、顔料をそのまま手で持って描くということになり、それは描く人の感情をそのまま表現しやすくなるということにもつながります。

裸になったクレパスをポキンと持ちやすい大きさに折り、四辺を新聞紙の上にマスキングテープで留めた画用紙に描いていきます。絵画には「形」と「色」の要素がありますが、一般的な絵画指導の場合、形の中に色をはみ出さないように塗ることを要求します。しかしクレパス画遊びでは、ただ好きな色を好きなだけ塗る、それだけをひたすら納得するまでやっていきます。「色」は情感を表すと言われますが、このクレパス画の手法は、「情感を解き放ち、その心地よさを実感する」ための手法だといえます。

顔料を直接手に持ち、ゴシゴシと塗り付ける心地よさを感じながら、さらにその塗ったところを指や手のひらで伸ばしていきます。最後にマスキングテープをはがしてみると、選んだ色、重ねた顔料の厚みなど、そこに「自分」が表れてくるのに驚きます。要領がつかめたら、後は好きな色を何色でも使い、画用紙の大きさも自由に変えながら、何枚でも描いていきます。色を塗って伸ばすだけでなく、何色も重ねた色を削る、ひっかくなどさまざまな技法を試しながら表現します。保育者（指導者）は、頭の中にイメージしたものを画用紙の上に再現しようとするのではなく、その瞬間の色や技法の選択とそれをやっている自分の感覚をじっくり楽しみ、味わうことを促します。そうしていると思いがけない色が表れてきたり、はみだしたり、ひっかいた傷ができてしまったりといろいろなことが起こりますが、そのどれもが失敗ではなく、大切な表現の要素となっていることに気がきます。ここでは何をしてもいいのです。

授業で体験するときは、最後にタイトルをつけた皆の作品を並べて鑑賞し合います。並べてみると出来上がった作品は一つとして同じものではなく、その多様さに感動します。自分から表れてくる表現に驚いたり、表現に没頭することの心地よさを実感したり、何より、そこに表れてくるものは自分の中から浮かび上がってきたものに他ならず、その個性の違いをそれぞれに感じて、会話も弾みます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行により、勤務していた大学でも対面での授業ができない期間が続きました。秋になりようやく対面での授業ができることになったときに、1年生の授業でクレパス画遊びをやってみたところ、「こんな授業を待っていたー」という声が聞かれました。その時抱えていた不安や焦りなどの気持ちを少し吐き出すことができたようでした。

学生自身が「楽しかった」「夢中になれた」という思いをしっかりと体験しながら、子どもたちにそんな遊びをたくさん提供できる遊びの専門家になってほしいと願います。

【引用・参考文献】「子どもの心を開放する絵画療法講座」『保育者養成校大学教員と園のリーダーのための保育特別講座テキスト』（子どもと保育研究所ぷろほ）



朴沢学園発祥の地 ～記念碑建立から33年・誉高き学園の歴史～



現在の記念碑（表）



記念碑（裏）

朴沢学園発祥の地は、現在の仙台市青葉区一番町2丁目です。初代朴澤三代治校長が、その地に松操私塾を始めたのは明治12年、廃刀令が公布されてから間もない頃でした。初代は日本の近代化と女性の社会進出の必要性という時勢に鑑み、自らの器用さを生かして革新的な裁縫の一斉教授法を創始、九州から北海道に至る全国20の道府県から子弟を集めて教育に当たり、本学園の基をつきました。

本学園は昭和20年の仙台大空襲戦災では、一夜にして校舎すべてを失いましたが、関係諸官庁および同窓生を中心とする方々のご厚意に支えられ、戦後の復興を成し遂げ、昭和42年には船岡に仙台大学を開学、また、教育環境の再編成計画に基づく朴沢女子高等学校の移転が昭和49年に完了しました。

今から33年前の昭和63年6月20日（火）、学園の跡地に立地した仙台東急ホテルにおいて「朴沢学園発祥の地」の記念碑建立除幕式並びに祝賀会・松操会総会が開催されました。

記念碑の建立は、朴沢女子高の第五代校長だった朴澤綾子学園長の遺志でもあったことから、昭和62年4月、同学園長の逝去を機に、是非建立をという声が急速に盛り上がり、松操会（同窓会）が8月に実行委員会を組織し、長年本学園の理事として学園運営にご助言を学頂いた元東北大学総長の故加藤陸奥雄先生のご尽力を得て、青葉通りの学校跡地所有者（日本生命保険相互会社・仙台東急ホテル）との間に調整が進み、一隅を無償借用して碑を建立することとなったのです。募金活動は順調に進み、寄付金賛助者は653名、募金総額は350万を超えるなど、同窓生の母校を思う熱い気持ちに包まれながら、朴澤綾子学園長の一周忌を記念して記念碑建立序幕式がおこなわれました。

仙台東急ホテルはその後土地所有者が変更となり取り壊され、現在は集合住宅となっておりますが、朴沢学園発祥の地である石碑は今も、日本の女子教育のパイオニアとしての誇りと伝統をあらわす象徴として静かに佇んでいます。

仙台市在住で昭和6年生まれ（現在90歳）、学創改革があった昭和26年に学園の朴沢専攻科を修了され、一番町の地で学ばれた佐々木順子さん（ささきよりこさん・旧姓：片倉）は、「朴沢学園にはお裁縫はもちろん、心理学といった教養を身に着けることができるたくさんの授業があり、とても楽しい毎日でした。

東北大学から4名の教授が心理学、西洋史、生物学、育児学などを講義、特に仙台大学の初代学長となった元東北大学医学部小児科教授・佐野保先生が、子宮のなかに赤ちゃんがいる図を示しながら解説くださった人間の神秘には目を見張りました。調理実習でも当時、珍しかった高価なオープンで美味しいお菓子を作ったり、生徒みんなで本格的な演劇に取り組むなど、女子教育に大変熱心で、これからは女性であってもしなやかに社会で貢献できる人材育成を目指していらした学園の方針は素晴らしいものでした。ご指導いただいた先生方は、加藤陸奥雄先生をはじめ生涯の恩師であり、朴沢学園で学んだ日々



明成のパンフレットを持つ佐々木順子さん（令和2年10月撮影）

心から感謝しております。男女共学となった今も、昨冬・男子バスケットウインターカップでの見事な日本一、世界で大活躍するプロバスケット八村塁選手の華麗なシュートを楽しみにしながら、仙台大学附属明成高等学校と名前を改め、大変立派な校舎が完成した母校を、コロナが終息したら訪れたいと考えております」とおっしゃっています。

朴沢学園創立以来今年で142年を経過、仙台大学附属明成高等学校と仙台大学は7年を通して学ぶ高大連携をなお一層強化し、これからも世界で羽ばたく人材の輩出および、スポーツを科学するアカデミックな歩みを加速いたします。



一番町にあった頃の校舎



仙台東急ホテルでの記念碑建立除幕式・祝賀会の様子（昭和63年6月20日）



入試懇談会を開催しました

6月15日に高校の進路指導教員を対象とした入試懇談会を開催しました。当日は青森県や栃木県など県外も含め61名が本学会場に来場され、また、リモートでの参加も可能とし35名が参加されました。

昨年は新型コロナウイルス感染の影響でリモートのみでの開催となりましたが、今年は感染対策を万全にして来場・リモートでのハイブリッド開催となりました。

懇談会は3部制とし、1部は学内見学、2部は学科・入試説明会、3部は個別相談会を実施し、学内見学では本学の魅力でもある各施設を約1時間に亘り案内し、学科・入試説明会では各学科長から熱く学科の魅力を伝えるとともに入試の改正点を中心に説明を行い、また、個別相談会では、対面で忌憚のない意見や要望など貴重な話を聴くことができました。

参加した先生からは、「進路指導にとっても参考になった」、「高校に帰ったら仙台大学希望の生徒に魅力を伝えたい」等の意見が寄せられました。



懇談会の様子

面倒見のいい大学へ／3年生対象個別面談を実施

本学では毎年3年生全員を対象に進路に関する個別面談を実施しております。

例年、夏休み前には全ての日程が消化できるように計画を立てており、今年度は6月1日よりスタートし、現在体育学科の学生247名の個別面談を終えることができました。これから残り5学科の学生および体育学科の一部の学生に対する面談が予定されており、7月中旬には全日程の終了を予定しております。

この個別面談の目的は、3年生の現状把握やインターンシップの参加促進、卒業後のキャリアを考える際の選択肢を増やすことなどを目的としており、この面接を機に行動に移す学生も少なくありません。

また本学では正課の授業とは別に、年間を通じて課外講座を実施し、就職支援を行っています。夏休み明けからは、いよいよ実践的な内容にうつり、エントリーシートの書き方や面接対策の講座を繰り返し行っていきます。

<報告：創職チーム>



面談中の様子

学生45人、聖火リレーでボランティア

6月21日(月)名取市閑上で行われた東京2020オリンピック聖火リレーのボランティアに本学の学生45人が参加しました。

ゆりあげ港朝市から閑上小中学校までのコース約2.4キロの沿道整理を行いました。

今回、参加した名古屋元気さん(現代武道3年)は「将来、警察官を目指しており、このような警備を経験できたこと、また日本で開催される五輪に少しでも関わることができてとても嬉しいです」と話してくれました。



沿道整理を行った名古屋元気さん(現代武道3年)



ボランティアとして活動した学生たち

元気いっぱい しばたいそう

仙台大学 教授 郡山孝幸

昨年、柴田町教育委員会からの依頼を受け、柴田町の子どもたちの体力向上と、運動に対する興味関心・意欲の向上を目的に「しばたいそう」の制作が始まりました。

本学の、主に子ども運動教育学科の教員が中心となり、町内の先生方との協議を重ね誕生したのが「元気いっぱい しばたいそう」です。

「しばたいそう」は、花の町柴田を象徴する『さくら』、郷土のシンボル『白石川の流れ』、遠く仰ぎ見る『蔵王の山々』の表現に併せて、町内六つの小学校の先生方が考案した「動き」を加え編成されております。

お披露目は、今年春開催の各小学校で行われる運動会。それに向け、仙台大学の学生が小学校に出向いて指導したり、子どもたちの前にたって示範したりしながら、子どもたちに愛着をもってもらうよう務めてきました。

子どもたちの前に立つにあたっては練習が欠かせません。子どもたちの前に立つためにはしっかりと覚え堂々と動くことに加え、「鏡の動き」を身に付けなければなりません。呼びかけに応じたのべ20名の学生が、毎週、山梨雅枝准教授の指導のもと練習に勤しみました。

約2ヶ月積み重ねた練習の成果発表は、5月15日の西住小学校の運動会を皮切りにスタートしました。当日は8名の学生が早朝から集まり、見事に素晴らしい体操を披露してくれました。しかしながら、5月21日・22日に予定された5校の運動会は残念ながら雨天中止となってしまいましたが、25日の予備日に柴田小学校で、また6月22日には船岡小学校で、代替措置として「しばたいそう」をする機会が設けられました。それぞれの小学校においても積み重ねた練習の成果を発揮し、堂々と美しく披露することができました。子どもたちも目を輝かせながら、生き生きと動き、表現していました。

この「しばたいそう」が町内の各学校に根付き、今後改良を加えながら体育学習の準備運動として、また学校行事の中で継続した取り組みとなることを期待しております。



柴田小学校で指導をする様子



西住小学校で指導をする様子



南一輝、体操部史上最高の3連覇/全日本種目別選手権

体操の第75回全日本種目別選手権は6月5、6の両日、群馬県高崎市の高崎アリーナで行われ、本学の南一輝（体育4年）が床運動を制し同種目3連覇を成し遂げました。体操部史上、最高の快挙です。

南は予選トップの成績で決勝に進出。演技はいつもなら「後方かかえ込み2回宙返り3回ひねり」のリ・ジョンソンで入るところですが、今回は脚の痛みから回避しました。それでも随所に力強さとスピードと華やかさが交じり合って観客を魅了。着地も乱れることはなく、出場8選手中ベストのスコア15.300（D6.500、E8.800）をマークしました。

南はこれまで東京五輪に床運動による個人枠での出場を目指してきました。しかし、NHK杯（5月16日）の直前練習で脚の肉離れというアクシデントに見舞われて欠場。ポイント獲得の上積みができませんでした。それでももう一つの夢が広がりつつあります。世界選手権（10月18～24日、北九州市）への出場です。オリンピックでの日本選手の成績次第にもよりますが、南は有力候補に名乗りを上げたといえます。

<体操競技部>



メダルを手に表情が和らぐ南

全国大会へ、決勝で逆転勝利／軟式野球部

軟式野球部は6月2日（水）、全日本大学選抜大会東北地区予選の決勝（仙台市民球場）に臨み、東北学院大学を4-2で下して優勝。8月に長野県内で行われる全日本大会への出場権を得ました。

試合はシーソーゲームでした。本学は先制するもひっくり返されという苦しい展開でしたが、監督兼任の岩渕颯太主将（スポーツ情報マスメディア学科3年）を中心とするナインが一つとなり逆転劇を演じました。

岩渕主将は「昨年秋の第1回ゼット杯東北王座決定戦東北地区予選の決勝で学院大に敗れただけに、何とか借りを返したかった」と振り返り、来る全日本へ向けて「さらに練習を重ねています。全国でも上位を目指して頑張ります」と意気込みを示しています。

<軟式野球部>



価値ある栄冠！ 真の東北チャンピオンに／軟式野球部

軟式野球の第2回大学東北王座決定戦は6月19日（土）、仙台市宮城野区の仙台市民球場で決勝を行い、本学が2-1で東北学院大学を下して優勝しました。先に制した全日本大学軟式野球大会東北地区予選は南東北3県がエリアでしたが、今大会は北東北3県の代表校も含む大会だけに価値ある頂点です。真の東北チャンピオンになりました。

試合は僅差の勝負でした。三、六回に本学が得点しリードするものの八回に失点。しかし、先発のエース成田晃辰（健康福祉3年）が粘り強い投球で反撃を抑え、そのまま逃げ切りました。

本学は8月、長野県内で行われる全日本大学軟式野球大会に出場することが決まっています。

<軟式野球部>



2021年度オープンキャンパス開催中

2021年度オープンキャンパスを開催中です。7月には学科体験会を開催し、9月まで土、日曜日に計13回構内を開放しています。

本年度は新型コロナウイルス感染予防対策から大規模人数での開催を避けて、安心して参加できるように人数を制限し、回数を増やして企画しました。5月にも計画しましたが、全国の感染状況を踏まえて予防対策の徹底と強化のため実施を2回見送り、6月13日（日）に最初のオープンキャンパスとなりました。

初回のキャンパスツアー型には30名（内保護者11名）が参加。4グループに分かれて体育学部6学科などの施設を回り、担当教員から学びの魅力について説明を受けました。

参加した高校生からは「希望している学科以外の説明もスポーツや運動に関わる話が聞けてとても興味深かった」、「初めて仙台大学に来た。こんなに設備や施設が充実していて驚きました」、「少数の班に分かれて施設を回れたので、ゆっくり安心して話を聞くことができました」など多くの声が寄せられました。



体育学科（第3体育館1階・トレーニングセンター）



健康福祉学科（C棟2階）



運動栄養学科（D棟2階）



スポーツ情報マスメディア学科
（第3体育館4階・映像スタジオ）



現代武道学科（第3体育館・柔道場）



子ども運動教育学科（LC棟・保育ルーム）

2020年度第15回 『仙台大学体育施設管理士』 認定証授与式を開催



2020年度「体育施設管理士」に認定された学生たちと記念写真

<18名が資格取得>

6月8日(火)A棟2階大会議室において2020年度第15回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式が行われました。高橋仁学長から2020年度に合格した18名のうち授与式に出席した13名の学生に認定証を一人一人に手渡されました。例年4月に開催していたがコロナ禍のために2度の延期を経て今回やっと実現でき、大勢の学生が参加しました。

<本学の授業で修得できる資格>

公認体育施設管理士（2021年度から公認スポーツ施設管理士と称号変更）は体育施設の維持管理・運営に必要な知識・技能を認定する資格です。この資格に必要な科目は本学において修得することができ、科目修得後、公益財団法人 日本体育施設協会（2021年度から公益財団法人日本スポーツ施設協会と称号変更）が学内で実施する資格認定試験に合格した者に『公認体育施設管理士』の資格が付与されます。日本体育施設協会は今まで66回の養成講習会（50余年間）を通してこの資格者を約11,900名認定してきました。本学は同協会の体育施設管理士認定校になって2021年度で16年目となります。累計601名の有資格者を養成し、授業を通して資格認定者の養成を継続しています。

<高橋仁学長の講評>

『この認定証は皆さんが学校などの体育施設の維持管理について、総合的な知識を持ちスポーツ施設を安全に維持管理することが出来る、そういう人であることを示すものです。それぞれの認定証には番号が有って何時それを取得したかが記録されています。そういった価値のある認定証になっていることをもう一度確認してほしいと考えます。特に学校においては子供達の安全ということが最も重要な最優先事項になっています。

この間も白石の小学校で防球ネットの木製の柱が腐っていて倒れてしまって子供さんが犠牲になるという本当に痛ましい事故が起きました。皆さんのような資格を持った人が学校にいればあの事故も防げたのではないかと思います。体育施設・スポーツ施設の安全管理ということは、楽しく体育・スポーツをする上で極めて重要なことになっています。「安全」という視点、学校だけでなく種々な体育施設を維持管理する上で極めて重要なことでもあります。

この認定証を取られた皆さんはこの点も含めてしっかりとした知識とスキルを持っているということになりますので、できるだけ多くの方がまず学校現場で教員となって、この資格をフルに活かして授業や部活動だけではなく施設の安全管理という点でも大いに活躍してほしいと思っています。そして学校以外の種々な企業や公的な機関などに就職をしてこの資格を生かして活躍していただく皆さんは、使い易いと言う事だけでは無く「安全」にも重点を置いて信頼に応えるような活躍と努力を期待しております。仙台大学の卒業生が種々な所でこの施設管理士という資格を生かしてこれからも活躍していくことを心から期待して挨拶いたします。これから皆さん頑張って下さい。』と述べられました。

<報告：体育施設管理コンサルタント 小島文雄>



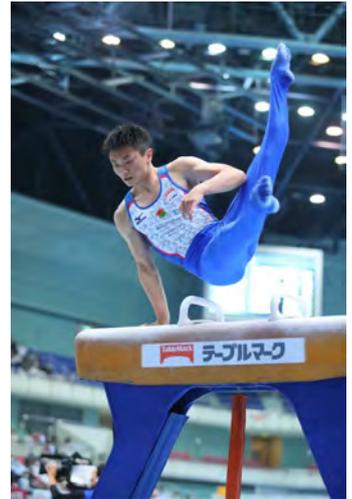
授与式の様子

亀山選手、初の五輪へ／本学OB通算4人目

本学卒業生で体操の亀山耕平選手（徳洲会、2011年卒）が男子あん馬で五輪切符を獲得しました。

国際体操連盟は6月28日（現地時間）、種目別ワールドカップ（W杯）シリーズ（計8戦）の成績を基に東京五輪出場を決めた選手を発表。亀山選手は2013年世界選手権に出場し男子あん馬で金メダルを獲得した成績を持ちますが、五輪の舞台に挑むのは初めてとなります。

本学関係者で夏の五輪代表になったのはこれまで、シドニー大会トライアスロンの小原工さん（1989年卒）、アテネ大会陸上1600^{メートル}リレー・400^{メートル}の佐藤光浩さん（2002年卒）、リオデジャネイロ大会ボート軽量級ダブルスカルの大元英照さん（2007年卒）がいます。



※写真は徳洲会提供

リーグ全勝締め／男子バレーボール部(春季)



第57回東北バレーボール大学男女リーグの男子1部5週目は6月26、27日（日）に本学第2体育館で行われました。

26日は東北公益文科大学、27日（日）は山形大学と対戦。両日ともに勝利を収め、本学男子バレーボール部の全日程を9戦全勝（暫定首位）で終えました。

結果は以下の通り

26日 仙台大学 3 (25-22, 25-16, 25-19) 0 東北公益文科大学

27日 仙台大学 3 (25-17, 26-24, 22-25, 25-20) 1 山形大学

今回のリーグ戦は無観客試合で行われ、学生運営のもとYoutubeを活用し試合のライブ配信を行ってまいりました。

この配信を通して、ご家族様や多くのバレーボールファンの方に、選手の活躍や会場の緊張感をご覧いただければ幸いです。

不都合が生じたことなど今回の課題を整理し、次回に繋げていきたいと思っております。

今後、国体予選や天皇杯予選などの大会が続きます。どの大会も好成績を残せるように更に練習を積み上げて参ります。引き続き本学男子バレーボール部の応援をよろしく申し上げます。

なお、今リーグは他大学の試合が7月以降に行われ、順位の確定は全試合終了後となります。

<男子バレーボール部>

芝草通信 NO. 26

担当 : 体育施設管理コンサルタント 小島文雄

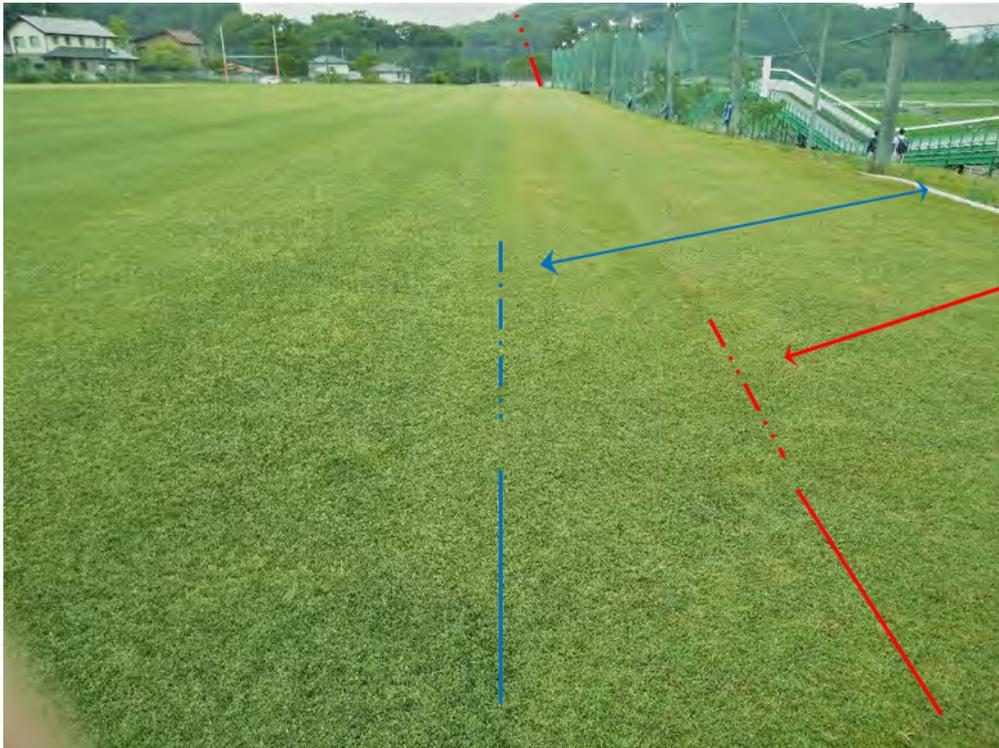
雑草(スズメノカタビラ)防除について

芝生でよく見られる雑草は約70種類といわれています。小さなかわいい花をつけて微笑ましいものや大きな葉をつけて芝草に覆いかぶさり日光を遮るなどいろいろな悪さをして芝草を駆逐するものなどがあります。よく出現する雑草の特徴を把握して防除しなければなりません。スズメノカタビラは芝草と同じイネ科に属しますのでなかなか良い除草剤が少なく、手で抜根することが多いです。

ゴルフ場のグリーンなどは高価な薬剤を使用しても営業的に良いとされ使用されることがありますが、低廉で使いやすい薬剤が少ないです。この雑草は冬雑草の1年草で、主に秋に発生し、2月から6月頃に出穂し花を咲かせます。湿り気のある場所に多く、刈込にも負けずにはびこります。刈込高さを下げると次の出穂位置をそれより下げてきます。刈込をしてもまた出穂し何度も繰り返しになります。夏の乾燥と温度に弱く夏季になると枯れてしまいますが無数に落ちた種子が次のシーズンには異常繁殖します。秋に土壌処理剤【発芽抑制剤】を散布して防除しますが、寒地型洋芝の播種時期と間隔を1か月ほど開けないと芝草も生えてきません。

2021年度の春先の寒地型洋芝の播種を見合わせて昨年秋に播種した寒地型洋芝を育成しています。30g/m²の種子を播種したのでその根茎が残っていました。写真の赤線より左側に播種し、右側は播種せずに、様子を見ました。芝草は多年草なのでその前の根茎でも育成できています。

今回スズメノカタビラに効果のある茎葉処理剤 シバゲンと土壌処理剤 グラトップを青線の右側に散布して観察中です。



(6月24日記)

仙台みそ大学～農場から道場へ～ ふるさとの食に学ぶ／高大食文化交流



6月5日（土）に、高大接続事業の一環として、本学附属の明成高等学校食文化創志科が取り組む「仙台みそ」を活用した食の学び講座が仙台大学女子柔道部の学生20名を対象とて行われました。

はじめに、高校食文化創志科の高橋信壮学科長から、「仙台みそ」について食文化の講話をいただきました。参加した学生のほとんどが県外出身。ふるさどで食べられているみそに触れつつ、日本では、米・麦・豆の主に3種類のみそが食べられていますが、「仙台みそ」は米みその部類であることを学びました。

講話の後、みそ仕込み体験を柔道場内で行い、普段は真剣な眼差しで柔道に取り組む場内が、和やかな雰囲気で見守られました。

今回仕込んだみそは、約半年間の熟成後、柔道部の学生とシェアしながら、アスリートを食で応援する高大交流行事や高大連携の社会貢献事業などで使用される予定です。

※柔道の創始者である嘉納治五郎先生は、東京高等師範学校の校長を勤めるなど教育者としても知られていました。また、嘉納後楽農園と呼ばれる農園を作り、作物の栽培にも尽力されていたそうです。

川平キャンパスAT・S&CLレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 38

担当：今野 桜 助手

6月上旬に宮城県高校総体が行われました。昨年度の高校総体は中止になったので、今年は1年生だけでなく2年生にとっても初めての高校総体でした。私は仙台大学附属明成高校女子サッカー部に試合帯同させていただきました。大会前の期間は部活動の制限もあり、なかなか思うように練習できない日々が続いて、うまくチームでの調整ができないフラストレーションが溜まっていたと思います。他の学校に比べたら練習時間は短かったかもしれませんが、生徒たちはそのことを理由にせず正々堂々と戦ってくれました。生徒たちの中には試合前にとっても緊張してしまう子や、1年生で初めての公式試合出場にもかかわらず活躍した子がいて、普段の練習では見られない一面を見ることができました。結果は第2位で東北大会出場は逃しましたが、次の大会に向けてチームはずでに進み始めています。私も今回の大会を通して、もっとこうしていれば選手たちがもっといいパフォーマンスができていたかもしれない、と思うことがいくつかあったので、大事な試合の時にケガで悩む選手が少しでも減るように今後の活動に活かしていきたいと思っています。

6月に入り気温が高くなる日が増えてきました。そこで注意しなければいけないのが「熱中症」です。川平ATRでも日頃のWBGT測定、傷害予防講習会、部活動時の声掛けなどを通して熱中症予防に取り組んでいます。熱中症は日頃の体調管理と運動時の休息や水分補給に気を付けていれば予防ができます。梅雨が明けると熱中症の症状で相談に来る生徒の数が多くなるので、生徒達には今の時期にしっかり熱中症についての知識を身に付け、自分の体は自分で管理して守れるようになってほしいと思います。川平ATRでは生徒達が健康な状態で、安全・安心してスポーツを楽しめるように今後も活動を続けていきます。